

思

三年 画数 9
筆順 口 田 思 思 思
オン シ おもひう

成り立ち



心ぞうのかたちをあらわした「心」と、「頭脳(脳)」のかたちをあらわした「囟」とをくみあわせた字です。ものごとをかんがえるはたらきは「心ぞう」と「頭脳」とがつかさどっているとかんがえられましたので、この二つをくみあわせて「かんがえる」こと、「おもう」ことをあらわしたものです。

いまは、「かんがえる」ということばは「考」という字であらわし、「おもう」ということばは「思」があらわすようになりました。それで、「思考」というじゆくごで「心のはたらき」をあらわします。

使い方

▽思考力(シヨウリキ)は、人間のもつ、もつともたいせつな力の一つです。

▽ぼくのおねえさんは、ねこがすきです。ぼくは、ねこより犬のほうが、かわいいと思います。ねこは、犬とくらべて、わがままだと思います。

▽「われ思う、ゆえにわれあり」ということばがあります。デカルトという人のことばです。「わたしは考える。だから、わたしというものがある」といういみです。人間(ニンジン)というものは、考えるというはたらきがあつてこそ人間なのです。このことばには、ふかいいみがあります。みなさんは、どう思いますか？

▽あなたは、大学(ダイガク)へいきたいという意思(イシ)がありますか。

熟語例

▽思考(シヨウコウ) (考えること。)

▽思慮(シヨリヨ) (ふかい考え。「慮」は、ふかく考えをめぐらす、といういみの字です。「思慮のある人」などといいます。)

▽意思(イシ) (なにかをしようとする思い)

紙

三年 画数 10
筆順 纒 糸 紙 紙 紙
オン シ かみ

成り立ち



かたむいたいえのかたちをあらわし、「たいらにする」といういみをあらわした「氏(4年529)」と、「繊維」のいみの「糸」とをくみあわせてつくった字です。

「繊維(糸るい)」をにて、たいらにのばしてつくった「かみ」のことをあらわした字です。

〔砥(平らにする)〕の意味の氏と糸との会意・形声字とする説、また、氏を平らな匙(音はシ)の象形とし、それと糸との会意・形声字とする説がある。いずれも子供には理解しにくいであろう。〕

使い方

▽むかし、紙は、繊維からつくられました。糸は繊維でできています。いまも、こういう紙はつくられています。和紙とよばれています。いま、ふつうにつかわれているのは洋紙です。これは、パルプから、つくられています。

▽ぼくは、紙とクレヨンがあると、なんじかんでも、あそんでいられます。いろいろなものかたちを、クレヨンで紙にかくのが、大きいです。

熟語例

▽和紙(ワシ) (日本の紙、といういみです。西洋からつたわつてきた「洋紙」にたいして、できたことばです。「和」というのは、日本のむかしのよびなです。「大和」ともいいました。ほかに、和風・和室などと、つかわれます。)

▽白紙(ハクシ) (白い紙のこと。また、なにかいてない紙のこと。)

▽紙幣(シヘイ) (紙でできたお金。おさつのことです。十円だまや、百円だまのことは、「硬貨」といいます。)

▽答案用紙(トウコウシ) (もんだいにたいする答えをかく紙)